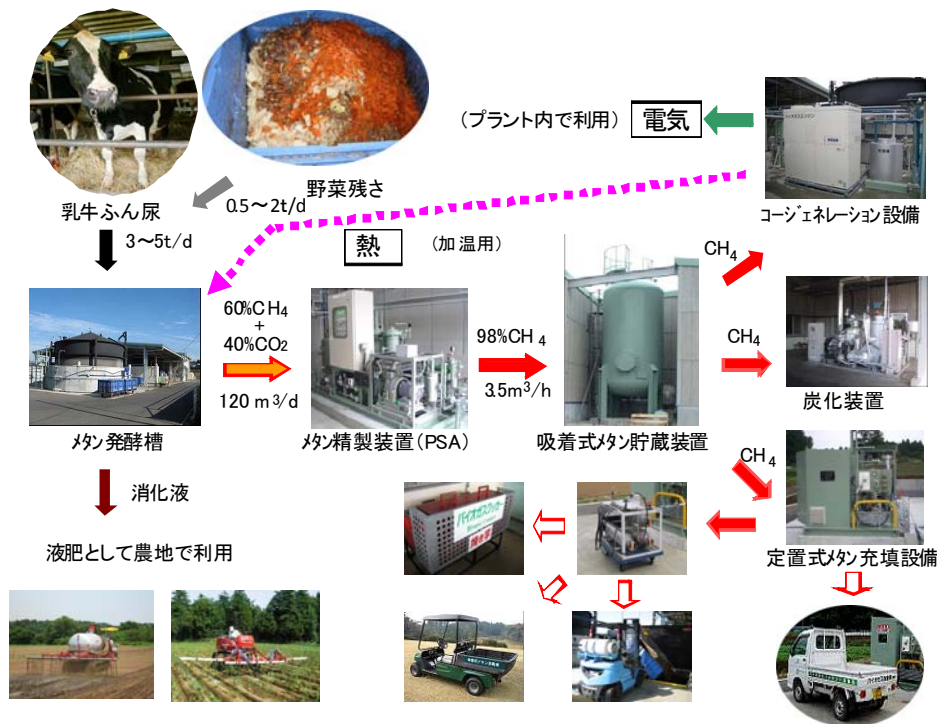


資源の地産地消に資するメタン発酵システムの実証

農研機構・農村工学研究所・資源循環システム研究チーム

乳牛ふん尿と野菜残さが原料のメタン発酵消化液を液肥として農地利用するとともに、バイオガスを精製した後に車両燃料等として使う「メタン発酵システム」を設計し、千葉県香取市に「山田バイオマープラント」として設置して運転を続けています。現場の創意工夫を活かして様々な課題を克服し、このシステムが**資源の地産地消**に貢献することを実証しました。得られた成果やノウハウは広く全国、そして世界へ発信しています。バイオマス利活用システムは、運営組織（人）、技術、制度への適合、資金調達がつながって成立します。本格的なバイオマスタウン構築に役立てることができます。つくば市でのバイオマス利活用の社会実験をする際の参考になります。



山田バイオマープラントを核とするメタン発酵システム

(注) 山田バイオマープラントとは、バイオマス利活用の「都市近郊農畜産業地域モデル」として研究開発用に設計・試作・設置したバイオマス変換プラント群の総称です。メタン発酵部分は、2005年7月に運転を開始しました。原料の調達、変換、生成物の近隣地域での利用、保守などの日常管理、利用できないものの適正処分など、バイオマス利活用の全プロセスを実行しています。本研究は、農林水産省の委託プロジェクト研究「地域活性化のためのバイオマス利用技術の開発（バイオマス利用モデルの利用・実証・評価）」の中で2011年度まで実施予定です。産学官連携、農工協働のプロジェクトです。